

C-50 基礎デザイン演習方法に関する研究——その4——

(衣服デザイン演習の導入として) 香蘭女短大。車 香澄 高松紫桜

衣服デザイン演習のための基礎的段階におけるトレーニングの内容と方法について具体例をあげて考察してきた。これまでの演習例とは、即ち構成要素の理解を主体としてこれを平面上で演習したものや、立体把握を主軸とした演習内容である。

今回は立体における錯視的現象と感情効果の理解を主眼とし、これを *tension* から導入する方法で行う。

方法 任意の図形を円筒形の曲面部分に条件に従って配置し、その結果を考察する。

process ①直径88mmの円2コと垂直線1本によって条件を設定し、これに任意の図形を加えて *tension* を充実させ、全体的な構成を行う。

② *accent* の位置移動を条件にして *transformation* を行う。

③各ステップの感情効果と錯視的な現象について分類と考察を行う。

まとめ 錯視現象は個々の *factor* が関連しあって生じるものであるから常に流動的であり、図形上の法則をそのまま形態上に転用することは危険である。衣服のジャンルでは構成要素が複雑であるために、その現象の把握はさらに困難である。

そこで基礎的段階では、*factor* の少ない形態の上で、漸近的なプロセスによって作業を進めることが必要であり、それによってさまざまな視覚的現象を明確にとらえることが可能になると考えられる。

演習の前・後に同一内容のテストを行い、その結果の解析を試みる。